

ペイブメント施工の注意事項

下地処理、準備についての注意

・下地処理

ペイブメントに限らず、補修材をうまく使ってもらうためには、下地が適当かどうかの見極めが非常に重要です。必ず、ハンマー等で下地の音を確認してください。脆弱部分ははつきりとってください。補修箇所のコンクリート表面が汚れていたり、油が浮いていたりする場合は洗剤等で洗い流してください。また、樹脂系材料がくっついていたり、プライマーが残っている場合はペイブメントを打設しても附着せず剥がれたり、割れたりしますので、完全にコンクリートの健全な面を出してください。

・クラック補修の注意

構造上欠陥がありそうなところは基本的にクラックの上から補修しても、再びひび割れが生じる可能性が高いので、あまりお勧め出来ません。補修する場合は、クラックが生じた要因や深さを十分に調べ、その対策を取る必要があります。補修する場合は鋭角には切削しないでください。大きめに切削してください。

・マイナス（FR、5F）での施工についての注意

ペイブメントは発熱しながら硬化するので、急激に熱が奪われると硬化が著しく遅くなったり、硬化不良を起こす場合があります。マイナス温度での施工厚みは補修箇所全面で25mm以上が望ましいです。特に補修部の端部の厚みに注意してください。

補修箇所を送風機等の冷風が直接あたる場合は硬化不良の原因になるので、送風機を止めるか、当たらないように注意してください。

・ドリルについて

練混ぜ用ドリルはモルタル用ドリル（日立工機D13VF等）、低速回転高トルク用（300～800回転/分、7アンペア以上）を使用してください。高速回転（800回転/分以上）は空気を巻き込み、表面に気泡が現象することもあります。また、トルクが低いとモーターが焼ききれてしまうことがあります。

練混ぜ、打設の注意

・水温の管理

ペイブメントの練り混ぜ前の材料温度に合わせて水温調節することで効率的に練り混ぜることができます。ペイブメントの練り混ぜ前の粉体温度と練り混ぜ水の温度の合計を約35℃～40℃に設定してください。

例) ペイブメント粉体温度が5℃→練り混ぜ水は約30℃～35℃に設定

〒105-0012

製造元：東京都港区芝大門 1-3-9YK ホープ芝大門 5F
株式会社シー・ティー・ジャパン

TEL：03-6435-7787

FAX：03-6435-7807

ペイブメントの粉体温度が 30℃→練り混ぜ水は約 5℃～10℃に設定

・ 施工について

コテを使用する場合は絶対にコテに水を付けて仕上げないでください。

コテを洗って使用する場合は必ずコテをふき取ってから使用してください。

施工前の補修箇所には水打ちはしないでください。但し、水が浮いている場合はウエス等で水を除去してください。湿っていても問題ありませんが、常時水が浸入してくる場合は付着切れ、強度不良の原因となります。補修後の散水養生は絶対にしないでください。加水によって強度不良の原因になります。

・ 目地部分への流れ込みについて

レベリングタイプの 5F を使用する場合はあらかじめ、流れ込む恐れのある隙間部分をパテ等（粘土）で押さえ、隙間を埋めておいてください。

・ 打設中に雨が降り出した、水が侵入してきた場合の注意

必ず、供用再開時間までは水があたらないようにしてください。

供用再開までに水の浸入があると、強度不良の原因となります。

・ 表面に汗をかいた状態になる

汗のような水分が表面に出る現象があります。これは材料の温度が上昇し、水分が表面に出る場合があります。この場合はウエス等でふきとってください。そのままにすると、その部分が白くなることがありますが、強度には影響ありません。

・ 目地部分の施工の注意

目地部分の施工で注意しなければならないのは、コンクリート自体が気温の変化で伸縮しますので、必ず、打設後に目地切りをしてください。もしくは、目地材を設置してから打設してください。その場合は、目地材が浮かないように固定してください。目地を再構築しない場合は割れたりひびが入る原因となります。

・ できれば 1 層で打設

基本的にペイブメントは重打ちは可能ですが、できる限り、1 層で打設してください。

重打ちの場合はペイブメントが冷めていない状態（連続打ち）で、最後の層が薄くならないようにしてください。

〒105-0012

製造元：東京都港区芝大門 1-3-9YK ホープ芝大門 5F
株式会社シー・ティー・ジャパン

TEL : 03-6435-7787

FAX : 03-6435-7807